

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「自分を見つめ ともに 未来をつくる子」
 ○響き合う豊かな学びの中で 自分を見つめ ともに 探究する子(知)
 ○たくましく しなやかな 心と体をもち 互いを大切にし ともに けんこうな生き方をつくる子(徳)(体)
 ○人やまちと関わり合いながら まちに誇りをもち ともに 新しい価値をつくり出す子(公)(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

具体化した資質・能力

<探究する力>
 <けんこうな生き方をつくる力>
 <新しい価値をつくり出す力>

情報を基に意思決定、行動選択する力 試行錯誤する能力
 協動的に行動する姿勢 新しい知識や問いを作り出す力

中期取組目標

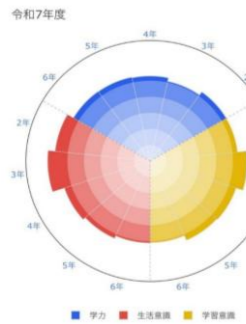
○ 子ども一人ひとりの思いを大切にしたい問題解決的な学習過程を重視し、協動的な学びを通して、持続可能な社会の実現に向けて自らの生き方を考える子どもを育てます。
 ① 問題解決的な追究過程を大切に、宮谷小で設定する「探究的な本気の姿」を目指して、教育活動の作り方を見直します。
 ② 地域、社会に広く材を求めながら生活科、総合的な学習の時間を中心とした探究的な学びを創ります。
 ③ 子どものまちへの思いを引き出し、人やまちと関わり合いながら地域・社会を大切にしたい気持ちを育てます。
 ④ 児童理解を、日々の観察とデータ活用から進め、学びの充実を生かします。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
学習指導	①生活・総合を軸に、自己決定を大切にしたい教科等の学びを教科横断的に活用できる学習指導の計画をし、自己決定感を大切にしたい学びにする。②学力・学習状況調査から明らかになった記述による思考表現について、教科等の学習で量的に充実させる。③教師と児童が積極的にICTを活用して学習を進める。
担当	スクールマネジメント部

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる児童生徒の実態
 学校全体として、横浜市平均を上回る結果となった。2年生の国語では、「時間的な順序を捉える」の正答率は30%で、横浜市の2年生は36%より下回っている。大まかな内容については捉えられるが、時系列に沿って考えることが難しい子がいることの現れだと考えられる。
 3年生の国語では、文学的な文章で「登場人物の行動の理由を想像する」の正答率が77%である一方、無回答が8%で横浜市の5%よりも多くなっている。考えることを面倒に思う子が一定数いることの現れだと考えられる。
 4年生の国語では、文学的な文章より説明的な文章に大きな課題がみられる。それぞれで分析すると、文学的な文章では、主語や述語、修飾語の理解に課題が見られる。音読の学習の中でも丁寧に押さえながら授業を進める。
 5年生の国語では、知識・技能の「慣用句の意味を知り、使う」の設問において、横浜市の平均正答率は68%、本校児童は77%が正答であった。思考・判断・表現の「絵や文などから理解したことに基づいて、自分の考えをもつ」の設問で、横浜市の平均正答率は43%、本校児童は76%が正答であった。



今年度の目標

記述による思考表現について、教科等の学習での量的な充実を図る

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ○これからの社会参加に必要な「非認知能力」の向上
 ・生活科や総合的な学習の時間を柱とした教科等の学習を通して、協動的に関わったり、自分から進んで役割を果たそうとしたり、友達と工夫したりする力を育てる。
 ○書く活動やノート指導の充実を図る。
 ・自分の思いや考え、理由を明確にしながら考えを整理して記述する等の書く力を高める指導の手立ての工夫
 ○達成感を得て、自尊感情を高めることのできる授業の構成を工夫する。
 ・共有化を意識した課題の設定、問題解決に向けて一人ひとりが学習の見通しをもつための時間の確保
 ・視覚的支援等、音声言語に加えた個別の支援の手立ての工夫
 ○基礎学力のさらなる定着に向けて、家庭学習等で家庭との連携を深める。
 ・家庭と情報を密に共有し連携して行う家庭学習や補充指導等の取組の強化

下半期
 ○これからの社会参加に必要な「非認知能力」の向上
 ・学習してきたことを生かして新しい知識や問いをつくりだし、協動的に課題解決の方法を考えたり情報をもとに自己選択・自己決定したりしながら、思いや願いを言語化して書く力を育む。
 ○市学習状況調査の結果やさまざまなデータを活用・分析し、教育課程の改善を図る。(市学状の活用)
 ○重点研究も含めた教科全体でふりかえりを意識した授業づくり及び授業改善を徹底する

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
道徳教育 人権教育	①豊かな心の育成を目指して、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する。 ②道徳的な価値を実現できるよう学校と家庭が連携できるよう、全学級の道徳科授業公開を年1回実施する。 ③挨拶が雑になったり、相手によって態度を変えたり、単なるマナーではなく、子どもが主体となって相手を思いやれる心の交流を目指すようにする。
担当	カリキュラムマネジメント部

豊かな心に関わる本校の状況

(1) 豊かな心に関わる児童生徒の実態
 本校の児童は、真摯に物事を受け止め、様々な教育活動に対して意欲的に活動している。また、地域行事に参加したり、地域の一員としての自覚をもって過ごしている児童もいた。
 一方、集団の中で、自分の思いを進んで表現することに抵抗を感じる様子が見られる児童もいる。児童の自己肯定感をより高めしていく必要があると考える。
 (2) これまでの学校の取組状況
 道徳科における教師の授業力の向上や、家庭・地域の理解を得て連携を図るために、道徳科の研修や授業公開を定期的に行っている。
 年2～3回、Y-Pアセスメントを行い、学年等で各学級の傾向や個々の児童の実態を把握・共有し、各学級に適したY-Pプログラムを計画・実践して、豊かな心の育成につなげてきている。

今年度の目標

「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学校
 ～互いの人権を尊重し、心豊かな児童を育成する～

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ○職員の人権意識を高める取組の充実
 ・人権研修等を通じた自身の人権感覚・人権意識の向上を図る。
 ○子どもの課題解決に向けた取組
 ・個の思いや願いをていねいにみとり、それぞれのよさを生かす授業づくり・学級づくりに取り組む。
 ・人権尊重の精神を基盤とする授業づくり
 ・子どもの主体性や協働性が育まれるような授業づくりを実践する。
 ・Y-Pプログラム年間計画に基づき、アセスメントを行って学級の実態を把握し、実態に合わせたY-Pプログラムの計画を立てて実践し、Y-Pアセスメントに基づいた学級の傾向、個々の児童の実態を日々の授業づくりに生かす。
 ・年間指導計画(学年層)や学級層に沿った全学級の道徳科の授業公開を年1回以上実施する。
 ・年間指導計画(学年層)や学級層を活用し、学校行事や各教科、総合的な学習の時間(「宮谷タイム」)等、豊かな体験との関連を図った道徳科の授業を行う。
 ○各区・校種別人権教育推進協議会の充実
 ・小中一貫推進ブロックでの人権教育の推進をする。

下半期
 ○職員の人権意識を高める取組の充実
 ・人権研修を振り返り、自身の人権感覚・人権意識の向上をさらに図る。
 ○子どもの課題解決に向けた取組
 ・個の思いや願いをていねいにみとり、それぞれのよさを生かす授業づくり・学級づくりに取り組む。
 ・人権尊重の精神を基盤とする授業づくり
 ・子どもの主体性や協働性が育まれるような授業づくりを実践する。
 ・Y-Pプログラム年間計画に基づき、アセスメントを行って学級の実態を把握し、実態に合わせたY-Pプログラムの実践を継続し、Y-Pアセスメントに基づいた学級の傾向、個々の児童の実態を日々の授業づくりに生かす。
 ・導入や終末の工夫や、板書、教材活用方法等の授業設計について研修し、授業力を高めることで、主体的で対話的な道徳科の授業づくりに取り組む。
 ○各区・校種別人権教育推進協議会の充実
 ・小中一貫推進ブロックでの人権教育の更なる推進をする。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康教育	①児童一人ひとりが健康診断や体力・運動能力調査の分析に基づいて、規則正しい生活を送るようとする姿勢を育む。 ②運動する楽しさや喜びを知り、日常生活における適切な体育的実践をとおして、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎が培われるようにする。 ③子ども主体で計画された運動集会を行い、楽しく体を動かす機会を確保し、日常的に運動に取り組む態度を養う。 ④自他の体を大切にすることを一層育てるために、性に関する指導の充実を図る。
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 体育・健康に関する実態
 ・運動委員会主催の「体力アップ大作戦」など、子どもの運動への意欲・関心を高める体育科学習の実践を通して、運動の楽しさや仲間とのかわりの大切さを学ぶ姿が見られる。
 ・毎年実施している保健委員会主催の学校保健委員会を通して、自分自身の健康を見つめ、生活の中で実践しようとする意欲や力が高まってきている。
 ・休み時間に外遊びをする子どもが多い。人数に対して空間の確保は十分ではないが、教師も一緒に遊び子どもの意識を高めるとともに、安全面にも配慮している。
 ・教科担任制や体育科担当、養護教諭による専門性を生かした指導による授業の充実を目指している。
 (2) 体力の概要と要因の分析
 令和7年度の体力・運動能力調査は、どの項目も市平均とはおおそ同様または上回る傾向にある。全国平均を下回る全国平均と比べると、平均を下回る傾向にはあるが、以前は横浜市の平均より低かったことを踏まえると緩やかな上昇傾向にあるので、今後も継続してプランを実践していくべきだと考える。
 一方で、学年が上がるにつれて、運動・睡眠時間の低下が変わらず見られる。中学受験による勉強時間の確保、タブレット端末使用の低年齢化などが要因であると考えられる。

今年度の目標

問題解決的な学習過程を重視し、協動的な学びを通して、生涯において豊かなスポーツライフを実現するための素地を養うこと。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
 ○子どもたち一人ひとりが自己の課題を理解し、学び合いを通して自己の課題に合った活動を選択できるような授業づくりをするために、専門性を生かす。
 ○休み時間に外遊びを推進する。
 ○運動委員会による休み時間の運動の取り組みを充実させる。

下半期
 ○子どもたち一人ひとりが自己の課題を理解し、学び合いを通して自己の課題に合った活動を選択できるような授業づくりをする。
 ○休み時間に外遊びを推進する。
 ○運動委員会による休み時間の運動の取り組みを充実させる。
 ○SFでの運動や協働の価値の再実感できるようにする。